

# 酒の過剰摂取大敵

肝臓がんの特徴や治療法などについて、市立大津市民病院の城正泰・消化器内科医長に聞いた。  
(角川哲朗)

## 病院の実力

\*滋賀編196

### 肝臓がん

肝臓がんの特徴などについて説明する城医長（大津市で）



市立大津市民病院 城正泰・消化器内科医長

Q 術後に気を付けることは。 A 肝臓がんは再発しやすいと言われています。特に慢性肝炎を患っていた場合、がんを切除したとしても発がんリスクは下がっていきません。定期的な検査は欠かせません。

Q 予防法は。 A 生活習慣を整えることが一番です。特にアルコールの過剰摂取は、肝臓がんの大敵です。糖尿病や脂肪肝の方もリスクが高いと言われています。適度な運動を心がけるとともに、飲み過ぎや食べ過ぎは肝臓だけでなく様々な臓器に負担がかかるので気を付けた方がいいでしょう。

Q 焼灼療法は難しい場合は、塞栓療法を行う。がん細胞に栄養を運ぶ血管に抗がん剤を注入したり、血管をふさいだりする。 A 進行がんでは、薬物療法が中心となる。がんの増殖などに関わる特定の分子を狙う「分子標的薬」が主流だったが、がんへの免疫の攻撃力を活性化させる「免疫治療薬」の注目度が高まっている。20年以降、免疫治療薬を組み合わせた薬物療法が相次いで行えるようになった。高い治療効果が根治を目指すこともできる。

Q 肝臓がんの原因は。 A B型肝炎やC型肝炎などから慢性肝炎や肝硬変などを経てがん化するケースが大半です。肝臓に炎症が起こり、肝臓の細胞が壊れて治って一を繰り返した結果、がん化するのでは、と考えられています。

Q 肝臓がんの特徴は。 A 自覚症状は出にくく、がんが少し大きくなっても気付かないことが多いです。「沈黙の臓器」といわれるゆえんです。

Q 手術は。 A 直径5センチ程度のがんが1か所なら切除が第一選択となります。がんの発症個数や大きさ、転移の有無などのほか、肝機能の数値や年齢、体力などを考慮して判断しています。

Q 治療で重視するのは。 A 外科や内科の医師、看護師や薬剤師など複数の医療関係者が治療方針を検討することが頻繁にあります。患者さんに治療の選択肢を提示してメリットやデメリットを説明し、納得していただく上で治療するように心がけています。

Q 予防法は。 A 生活習慣を整えることが一番です。特にアルコールの過剰摂取は、肝臓がんの大敵です。糖尿病や脂肪肝の方もリスクが高いと言われています。適度な運動を心がけるとともに、飲み過ぎや食べ過ぎは肝臓だけでなく様々な臓器に負担がかかるので気を付けた方がいいでしょう。

Q 焼灼療法は難しい場合は、塞栓療法を行う。がん細胞に栄養を運ぶ血管に抗がん剤を注入したり、血管をふさいだりする。 A 進行がんでは、薬物療法が中心となる。がんの増殖などに関わる特定の分子を狙う「分子標的薬」が主流だったが、がんへの免疫の攻撃力を活性化させる「免疫治療薬」の注目度が高まっている。20年以降、免疫治療薬を組み合わせた薬物療法が相次いで行えるようになった。高い治療効果が根治を目指すこともできる。

### 病院の実力「肝臓がん」

医療機関別2023年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	切除手術		焼灼療法		塞栓療法		免疫治療薬を使った薬物療法	
	(件)	(件)	(件)	(件)	(人)	(人)	(人)	(人)
<b>石川県</b>								
国・金沢医療セ	18	8	0	7	1			
金沢医大	6	5	3	25	4			
<b>福井県</b>								
県済生会	11	3	9	124	30			
福井県立	8	5	23	10	19			
福井大	6	0	16	35	8			
福井赤十字	5	2	0	12	4			
<b>滋賀県</b>								
滋賀医大	29	19	5	32	13			
県立総合	23	10	6	9	9			
大津赤十字	13	7	19	10	10			
近江八幡市立総合医療セ	11	5	5	15	20			
大津市民	8	3	22	7	4			
済生会滋賀県	7	1	1	21	3			
淡海医療セ	4	3	0	8	4			
<b>京都府</b>								
京都大	63	33	47	50	22			
府立医大	31	26	—	47	18			
京都桂	20	8	19	22	5			
京都市立	16	16	9	4	2			
京都第一赤十字	13	10	12	85	13			
武田総合	10	4	1	2	5			
JCHO京都鞍馬口医療セ	5	0	14	7	0			
京都岡本記念	5	1	2	11	3			
京都第二赤十字	3	0	0	9	0			
武田	1	0	5	1	3			
宇治武田	0	0	0	0	3			

「国・」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。「—」は無回答または不明。

近年、肝臓がんはウイルス性肝炎よりも、脂肪肝などの生活習慣に起因するものが増加傾向にあり、約半数を占めるとされる。血液検査で肝障害の指標「ALT」の値が30を超えたら、早期の受診を考えた方がいい。

### 焼灼療法肝機能を温存

今回の病院の実力は、肝臓がんを取り上げる。一覧表には手術や薬物療法などの治療実績を載せた。肝臓がんの治療は、がんの大きさや個数、肝機能の状態に加え、再発の可能性も考慮し、治療法を選択する。外科手術のほか、内科的な治療の選択肢が増えている。手術は、がんとその周囲を切除する。開腹手術、おなかに数か所の穴を開けて行う腹腔鏡手術に加え、ロボット支援下手術が2022年に公的医療保険の適用となった。手術と並び、根治が期待できるのが焼灼療法だ。局所麻酔で肝臓に電極針を刺し、ラジオ波などでがんを焼く。体への負担が少なく、肝機能も温存できる。